

おはなし研究会 ともだち屋 活動報告

初等教育科 助 安 明 美

1. おはなし研究会「ともだち屋」について

ともだち屋は、令和4年度 2年生7名1年生12名。計19名で活動を開始しました。大型紙芝居を中心にお声がかかれれば何でも挑戦どこでも出発。「友だちづくり」を目標にして活動に取り組んでいます。学生はその都度対象者・場所・人数・時間など要望に合った演目を企画し練習を重ねています。令和5年度は、1年生23名が仲間入りし活動も大型紙芝居・ダンス・わらべ歌・創作劇・オペレッタ・司会等、幅広く展開しています。

2. 2年生の感想

だいき だいき ともだちや

2年 川邊めるも

「おはなし研究会ともだちや」の活動を通して、表現の仕方や、導入の仕方などを学びました。5月に行われた能楽堂での創作劇では、仲間達と構成などを確認しながら練習を重ねました。私は大きな声を出すことが苦手だったのですが、発声を繰り返し意識したことで、改善することができました。本番では、最高の劇を行うことができました。また、1年生が加わり先輩としてどうすればよいのか、悩むことが沢山ありました。しかし、研究会でこのような経験があったことで、今まで気付かなかった自分の苦手なことや得意なことを知ることができました。これからは得意なことは伸ばし、苦手なことは改善できるよう努力していこうと思います。

最高な出逢い

2年 木下 美優

私は研究会紹介の時、元気で明るく耳に通りやすい声で話す先生に魅了され、「ともだち屋」の一員として活動してみようと決断しました。正直、研究内容が自分の苦手な「言葉で表現をする活動」だったということに後々気付きました。園へ訪問、能楽堂での舞台、時には裏方の活動を行い表現することの楽しさ、周りを見て

気配りをする事の大切さなど、経験を重ねることで楽しさへ一変し沢山の力が身に付きました。また、自分の特技であるトランペットを披露出来たことが印象深く、先生からのお声を頂いたことにとても感謝しています。

この活動で出逢えた友達、大好きな先生、身に付いた力を大切に、また何年後かに再会したいなと思っています。ともだちや最高！！

ともだち屋での成長

2年 河野 理玖

私がともだち屋に入った理由は、私自身が研究会に入りたかったのと、最初は、先輩方の研究会の紹介を見て、「何この黒集団」「ともだち屋って何?」「声がでかい先生は誰だ」とずっと思っていました。それから、ともだち屋に入って、みんなでイベントに参加して子どもたちに劇を披露したり歌を歌ったりしていく中で、みんなとの信頼関係を築くことができました。しかし、1番苦労したことがあります。それは「声」です。みんなの前で発表する恥ずかしさや元々の声の低さで中々、声が出せなくてとても大変でした。ですが、練習や色々な所に参加させていく中で、恥ずかしさがなくなり自信を持って劇を披露したり歌を歌ったりすることができました。

これが私のともだち屋での成長です。

研究会に入って感じたこと

2年 甲斐 萌花

研究会で保育園訪問やイベントに参加して、様々な事を学び感じましたがその中で特に印象に残っていることがあります。それは、見に来た人が楽しめるように工夫することの難しさです。会場や年齢に合わせて話し方や声の大きさを変え、どうすれば楽しかったと思ってもらえるか試行錯誤しながら練習しました。本番で子ども達の笑顔が見れた時や一緒にリズムにのって手拍子をしてくれた時は達成感を感じることができました。また、他のクラスの人や後輩、先生と沢山のコミュニケーションを取りながら練習していき、劇や歌を作り上げていくことの楽しさを感じました。様々な経験や知識を得ることができる研究会活動に入って良かったです。

思い出いっぱいともだち屋

2年 甲斐 優花

ともだち屋の主な活動は園訪問やイベントに参加し劇や大型紙芝居の読み聞かせを行います。子ども達と直接関わり活動を行う中で話し方や言葉かけをどのようにしたら子ども達に楽しんでもらえるかなどを工夫し、実践的な知識やコミュニケーション能力を身につけることができました。活動する時はしっかり取り組みますが、みんなで楽しむ時間もたくさんありました。イベント後に公園で遊んだり、焼肉に行ったり、カラオケに行ったり、ビンゴ大会をしたり楽しい思い出がいっぱいです。苦戦したこと、悩んだこともありますがみんなで案を出し合い解決したこともとてもいい思い出です。ともだち屋が好きすぎて、楽しすぎてもう卒業かと思うととても寂しいです。ともだち屋で経験したことを活かしてこれから頑張ります。

研究会で学んだこと

2年 中野 克哉

私はこの研究会に入り様々な体験をすることが出来た。1つ目は出会いだ、研究会には様々な友達、先輩、先生がいて一人一人が協力しひとつの事をどうやったらより良くなるのかを話し合い実践する。そうすることでかけがえのない仲間達との大切な思い出になる。それは今後

の人生でのどこかで必ず役に立つ武器になると思った。2つ目は子供との関わりだ、大前提として子どもが大好きな人達の集まりであり、研究会では子ども達の前で劇やダンスをすることで子どもの実際に関わり子ども達が楽しそうにしている姿を見ることで自分の自信をつけることができることが出来た。これらの経験は大学生活の中でしか学べないことで、この研究会で出会えた仲間は今後良い教育者としての仲間になりまたどこかで一緒に活動できたらなと楽しみにしている。

仲間との出会い

2年 参 広太郎

私は、数ある研究会の中でともだち屋の明るい雰囲気惹かれ入ることを決めました。初めてみんなと顔合わせをした時に「良い人達ばかりだ」と、思い安心しました。そんなともだち屋で私が1番の課題だと思っていたことは人前に立った時の表現力です。ともだち屋の活動で表現力とは、なくてはならない力です。そんな表現力が私には欠けていました。人前に立つとすぐに緊張します。そんな私を、たくさんメンバーが支えてくれました。そして、保育園への訪問や能楽堂での発表会など、ともだち屋に入っていなければ経験することの出来ない貴重な経験をすることが出来ました。これら多くの経験を重ね、少しずつ人前に立つ事が嫌では無くなりました。緊張はしますが…。私は小学校の教員になります。そんな私に、この2年間で少しでも表現力という力をつけさせてくれたともだち屋には本当に感謝しています。最初は全然話さなかったけれど、今ではなんでも言い合いふざけあえるような仲になった2年生のメンバーのみんな本当にありがと。男女関係なく仲の良いこのともだち屋は最高だと思います。一緒にご飯に行ったり遊んだりした時間はとても充実していました。新一年生が30人以上入ってくれた時はとても達成感を感じたね。そんな私たちを優しく見守ってくれた先生、改めて本当にありがとございました。

友だち屋 最高。

研究会活動を通して

2年 久保田玲夢

研究会での学びを振り返りますと、人との協力が重要であることが際立っています。現代社会では、異なるバックグラウンドや専門知識を持つ人々が協力して問題を解決することが不可欠です。特に、チームワークが強調される中、異なる視点やスキルを持つ仲間たちと協力することで、よりクリエイティブで効果的な解決策が生まれることが分かりました。

また、子供たちとの適切な接し方についても学びがあります。子供たちは独自の感受性や興味を持っており、彼らと適切に対話することが重要です。コミュニケーションの中で子供たちの個性を理解し、尊重することが、彼らの発達に良い影響を与えると知りました。また、教育や指導の場での協力も、子供たちの成長を促進する要因であると認識しました。

よって、人と協力することの重要性と子供たちとの適切な接し方に関する理解が、個人や社会全体の発展に寄与することが研究会を通じて学べました。

研究会で学んだこと

2年 原 景虎

私がともだちやに入った訳は特に理由はなく、ともだちやが集まっていたところにたまたま通りかかったからです。研究会に入ってよかったことは、授業だけでは経験できない保育園での紙芝居の読み聞かせや、能楽堂での劇などをたくさん経験させて頂きました。また大学の授業ではクラスの仲間とはよく協力したりしますが、他のクラスや他の学年と関わる事ができました。授業時間が噛み合わない中、少ない時間を使って一つのものをつくる楽しさを知りました。特に能楽堂では初めての劇で鬼をやらせて頂きました。初めてということで最初の方はうまくいかず、セリフもあまり覚えられませんでした。しかし練習を重ねるごとに上達し充実した時間になりました。このような経験ができて研究会には行ってよかったと思っています。

研究会で学んだこと

2年 岸本 龍輝

私がお話し研究会ともだち屋に入って人前に立つことへの抵抗心がなくなり、何事にも挑戦する事の大切さを学ぶことができました。

この研究会に入ることになったきっかけは1ヶ月に2.3回あるかないかの授業で2年間を通して2単位もとれるということ！、そして何より「先生が面白くて優しく可愛い」という理由でした。これが恐怖の明美ワールドの始まりだとは誰も想像していませんでした。急に予定を入れられ貴重な祝日も消え、何度無理な無茶振りをされたことでしょうか。今考えてみるとそれは先生の愛の試練でありそれによって、学生だけで何かを真剣に取り組み、作り上げる事の難しさ、達成感などを学ぶことができました。これは自分の財産となり先生や仲間たちにはとても感謝しています。

ともだち屋

2年 金丸 未夢

私は表現力や自分の思った事、考えた事を発言するのが苦手だったので、「ともだちや」に入りました。ともだちやで学んだ事は、全員で素晴らしい劇にする事を目標にして一人ひとりの役割を果たしたり、挨拶や休憩中の過ごし方など現場に出た時に社会人としてのマナーが守れるような行動をしたり、同級生だけで仲良くするのはなく下級生とも一緒に話して仲を深める事が大切だと学びました。苦手だった表現力は友達のを借りてどんな風にしたら相手に伝わるかを相談し、1人で悩まずに自分の気持ちも言えるようになりました。人数が多いともだちやだけど、みんなで1つの目標に向かって取り組む事はとても大事な事だと思いました。周りに意見を言う事や表現力が苦手だと思っていたけれど、ともだちやに入って変わった自分を実感しています。



3. 主な活動報告

日時	行事内容
令和4年 8月3日	オープンエデュケーションルーム「わらべうたlibrary」収録
11月30日	第2回 Winter フェスティバル 2022
12月24日	劇団立見席 演劇祭 研究会公演
令和5年 2月24日	入学前体験講座①
2月28日	友愛保育園訪問
3月22日	入学前体験講座②
4月12日	託児経験
5月14日	My first のうがくどう 子どもの広場 みんなで遊ぼうー劇から飛び出す歌遊びー
7月12日	オープンエデュケーションルーム「わらべうたlibrary」収録
11月3日	久住キンダーフェスト 2023
11月29日	第3回 Winter フェスティバル 2023
12月2日	劇団立見席 演劇祭 研究会公演
令和6年 2月予定	友愛保育園訪問

4. 成果と今後に向けて

子どもたちと関わる場を楽しく作っていき。と少々のんびりスタートした研究会のつもりであった。しかし、学生の明るさとエネルギーに魅了され、活動の場を与えていただく事が多くなっていった。部長を作らず、その都度リーダー、係を変え全員がどの立場も経験できるように進めてきた。自分たちの発表を観て下さる方のことを思い、自身の課題をみつけ実践を通して克服していく姿は、素晴らしかった。

出演の経験を重ねていくうちに盛り上がっていく学生には、挨拶やマナー、また表現活動の表舞台だけで満足するのではなく、裏方があることであると、その都度現場で指導してきた。各自の感想の中で、研究会の活動のねらいを真摯に受け止め成長している様子からは大きな成果が窺え誇りに思う。学生の自主性を育てていくには、まだまだ私自身の課題が多いことは事実であるが、この研究会を通して、夢を持ち続け努力することを惜しまない学生を社会に送り出したいと考える。

学生を温かく迎え、成長の場を与えていただいている多くの関係者の方々のご厚意に、心より感謝申し上げたい。



—活動の様子—

